

5 文法2 副詞・連体詞・助詞の用法

組	番号	氏名
---	----	----

① 次の各文の——線部の中で、副詞はどちらか。() に○印を書きなさい。また、副詞でないほうは、品詞名を書きなさい。

① 先生が、すぐに集まるようにおっしゃった。()

② 先生が、静かにするようにおっしゃった。()

② 次の各文の——線部の中で、連体詞はどちらか。() に○印を書きなさい。また、連体詞でないほうは、品詞名を書きなさい。

① 仙台市の北側には、泉ヶ岳という山がある。()

② ある日、友人と泉ヶ岳にドライブに出かけた。()

③ 次の表のそれぞれの助詞のはたらきを、ア～エの中から選んで記号で書きなさい。

助詞の種類	語例	はたらき
格助詞	が・の・を・に・と・へ・から・より・で・や	
接続助詞	て(で)・と・ば・ものなら・から・ので・が・けれど(けれども)・のに・ても(でも)・ものの・し・たり(だり)・ながら・つつ・なり 等	
副助詞	は・も・こそ・さえ・すら・でも・だって・まで・だけ・ばかり・のみ・しか・きり・ほど・くらい(ぐらい)・など・とか・やら・なり・ずつ・か 等	
終助詞	か・かい・かしら・の・な(なあ)・こと・ね(ねえ)・よ・さ・ぜ・ぞ・や・わ・とも・な・ものか 等	

- ア 主として名詞の後について、後に続く言葉との関係を示す。
- イ 活用する語(用言・助動詞)の後について、前後をいろいろな関係で接続する。
- ウ いろいろな語について、その後には様々な意味を添える。
- エ 主として文の終わりについて、話し手・書き手の気持ちを表す。